

伊勢志摩サミットの「レガシー」について

1 サミットの実施結果と主な成果

サミットの「レガシー」については、「サミットの実施により、地域にもたらされる有形無形の好影響」と定義するとともに、「知名度等の向上」「会議自体の成果」「地域の総合力の向上」の3つの柱で基本的な考え方を整理し、平成28年2月15日の全員協議会において説明しました。

この基本的な考え方にに基づき、伊勢志摩サミットが成功裏に閉幕した結果をふまえ、現時点における実施結果と主な成果を以下のとおり整理しました。

レガシーの項目	実施結果と主な成果
<p>1 知名度等の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重及び伊勢志摩の知名度向上や評価・関心の高まり ・県民と海外・世界との距離が縮まること 等 	<p>○首脳等による神宮訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神宮が「平和への祈り」「調和（自然と人との共生）」「融和（他者や多様性への寛容）」「日本の伝統文化の継続性」等を示す場であることを各国首脳等が実感。世界平和の確立に向けたメッセージを発信 →世界の巡礼地等に匹敵するような、世界中から人が訪れる場所へ <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重情報館による発信（5日間で総入館者数12,729人） ・海外プレスツアーによる取材（36か国・地域のプレスが22回実施） ・首脳会議や配偶者プログラム、IMCにおいて、伊勢エビや伊勢マグロ、アワビ等の海産物、松阪牛や伊賀牛、伊勢茶等の農畜産物、さらには日本酒、加工品など、県内26市町から、少なくとも269品目の県産食材等の使用 ・首脳会議用円卓に尾鷲ひのきが使用されたほか、会議用机・椅子などに少なくとも42品目の県産品、食器類の使用 ・IMCの外壁や内装に多くの県産材の使用 ・各国首脳が着用した「ラペルピン」へのアコヤ真珠の提供 ・警備、消防などに提供された33万食の弁当に、伊勢ひじきやおおさ等、少なくとも18品目の県産食材の使用 ・ローソンと連携・開発した、伊勢茶を使用した伊勢志摩サミット開催記念スイーツの店舗販売（H27.10～H28.5、7品目） ・513ベーカリーと連携・開発した、県産食材を使用した「みえパン」の店舗販売（H27.10～、24品目） ・県産の食材や物産、県産食材を使用したメニューへの「伊勢志摩サミット県民会議のシンボルマークを活用した統一マーク」の貼付（55事業者、248商品） →伊勢志摩・三重県の知名度向上へ 商品開発や販路開拓等による新たなビジネスチャンスへ

<p>2 会議自体の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宣言、方針、共同声明や、それらに基づく計画、取組等 	<p>○「伊勢志摩」の名を冠した首脳宣言等</p> <p>G 7伊勢志摩首脳宣言(G 7伊勢志摩経済イニシアチブ含)、質の高いインフラ投資の推進のためのG 7伊勢志摩原則、国際保健のためのG 7伊勢志摩ビジョン →伊勢志摩・三重県の知名度向上へ</p> <p>○議論された課題への対応</p> <p>感染症対策、女性の能力開花支援、エネルギー・環境問題への対応等 →世界的な課題への県施策によるアプローチへ</p>
<p>3 地域の総合力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民や地域の一体感の醸成 ・郷土に対する愛着や誇りの高まり ・地域に対する理解深化、地域のネットワーク強化 ・アクティブ・シチズンの増加 	<p>○県民の皆様の活躍</p> <p><おもてなし大作戦の県内全市町での展開></p> <p>「クリーンアップ作戦」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キックオフイベントへの参加者 約 700 名 ・市町における活動 29 市町 (6 万人以上) ・企業、団体等による活動 34 団体 ※キックオフイベントへの協賛等を含む ・東海二県一市と連携した活動 1,300 名以上 <p>「花いっぱい作戦」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートセレモニーへの参加者 約 300 名 ・花の寄せ植え体験講座への参加者 1,000 名 ・市町における活動 29 市町 ・企業、団体等による活動 36 団体 ※スタートセレモニーへの協賛等を含む ・飾花数 11 万本以上 <p><外国語案内ボランティアの活躍></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10代から80代まで幅広い層から 1,003 名応募 ・300 名採用 (277 名活動)、約 2,700 名の外国人に対応 ※企業・学校単位の協賛事業による派遣含む 339 名 ・ユニフォームデザイン考案 飯野高校 2 名 <p><配偶者プログラムでの参加></p> <p>(真珠島交流プログラム) 延べ 148 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海女によるお出迎えや交流 85 名 ・鳥羽市女将団体によるお出迎え 9 名 ・伊勢音頭保存会・「伊勢っ子」との踊りによる交流 41 名 ・鳥羽九鬼水軍太鼓保存会による演奏 8 名等 <p>(IMC 視察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸士による伊賀くみひもの実演 1 名 ・県手もみ茶技術伝承保存会による伊勢茶手もみ実演と体験 2 名

(つづき)

- ・通訳ボランティアによる竹細工ワークショップの通訳サポート 2名

<三重情報館での参加>

- ・鈴鹿墨を使用した書のパフォーマンスと書の実演 5名
- ・県内 35 全ての蔵元からの日本酒の振る舞い 2名
- ・伊勢形紙の実演 1名
- ・伊賀忍者特殊集団「阿修羅」による忍者ショー 5名
- ・伊賀組みひもの実演 1名
- ・現役海女による講話と対話 2名
- ・伊勢茶と三重の餅菓子の振る舞い 2名

<各国首脳等と県民との交流～世界との絆づくり>

- ・ベトナム・フック首相のお出迎え等 約 30 名
- ・ベトナム・閣僚の松阪市訪問時のお出迎え 約 30 名

<ジュニア・サミットでの参加>

- ・KUWANA NIGHT での桑名市民によるお出迎え 約 2,000 名
- ・サポートデスクの設置 (看護師・臨床心理士等)
- ・将棋体験 日本将棋連盟三重県支部連合会 5名
- ・三重県出発の見送り (通訳ボランティア、スタッフ等)

<IMC アネックスガイドツアーの実施>

- ・一般県民等対象 1,040 名

<協賛、応援、寄附>

- ・合わせて 1,000 件を超える協賛・応援
- ・5 億円を超える寄附

→地域の一体感の醸成、郷土に対する愛着や誇りの高まり
地域をより良くしようとする意欲の醸成へ

(つづき)

○次代を担う子ども・若者の大活躍

<首脳の神宮訪問での参加>

- ・幼稚園児（神宮附属幼稚園）によるお出迎え 46名
- ・南勢志摩地域の小学生による植樹のお手伝い 20名

<配偶者プログラムでの参加>

（総理夫人主催昼食会）

- ・相可高校食物調理科生徒等による食事の提供 11名

（総理夫人主催夕食会）

- ・若手バイオリニスト（津市在住中学生）による演奏 1名

（真珠島交流プログラム）

- ・伊勢音頭保存会・「伊勢っ子」との踊りによる交流

（植樹）

- ・志摩市立神明小学校児童によるサポート 9名

（IMC 視察）

- ・障がい者等とのパラスポーツ体験（伊勢市小学生）約 50名

<ジュニア・サミットでの参加> 延べ 518名

- ・日本代表参加者（高校生）4名
- ・討議に資する視察への参加（案内・交流）四日市高校 9名
- ・県内分散型体験・交流行事への参加（案内・交流）（各地域の高校生） 28名（4コース×7名）
- ・県内農業高校等（6校）による花のプランターづくり（180個） 141名
- ・開催日程中のハンドベル演奏 セントヨゼフ女子学園高校・中学校 32名
- ・県内分散型体験・交流行事でのおもてなし
鈴鹿墨のパフォーマンス 鈴鹿高校 14名
まごの店での昼食のふるまい 相可高校 19名
太鼓演奏 特別支援学校玉城わかば学園 31名
歓迎 141名（小・中・高・保育園）
お囃子演奏 亀山市立関小学校 17名
- ・お別れセレモニーでの吹奏楽演奏等
白子高校吹奏楽部 30名
スタンド花作成 久居農林高校 3名
- ・参加者用名札（伊賀組紐）の作成
特別支援学校（2校）19名
- ・マイ箸袋（さをり織り）の作成
特別支援学校（2校）25名
- ・ウェルカムメッセージの作成 相可高校生産経済科 5名

(つづき)

<各国首脳等と県民との交流～世界との絆づくり>

- ・英国首相同行プレスによる皇學館大学生との交流
(雅楽部学生による演奏や舞の披露) 55名

<国際理解・国際交流プログラム>

- ・平成27年度 91回実施
幼稚園・保育所22園・所(25回)、小中学校28校(44回)、高校6校(7回)、特別支援学校3校(5回)、その他10団体(10回)
- ・平成28年度 30回の予定(実施中)
小中学校16校(25回)、高校1校(1回)、特別支援学校4校(4回)

<外務省事業「イチからわかる!サミット塾」>

- ・小学校21校、高校8校で実施

<サミット給食>

- ・小中学校(全29市町)229回、特別支援学校(11校)63回、計292回実施

<子どもふるさとサミット>

- ・小中学校児童生徒ほか430名(うち小中学生180名)

<三重の高校生サミット>

- ・高校生ほか 延べ148名
(ジュニア・サミット日本代表、同体験・交流行事参加者、国際地学オリンピック生徒実行委員、大学生、県外のサミット関連事業に参加した高校生等)

<IMC アネックスガイドツアーの実施>

- ・小中高特別支援学校の児童生徒対象
2,235名(小中学校27校、高校4校、特別支援学校2校)
- ・子どもふるさとサミット及び高校生サミット参加者対象
103名(保護者等を含む)

<食の情報発信>

- ・三重県立みえ夢学園高等学校と連携し、三重の農林水産物をモチーフしたLINEスタンプ「三重のええもんスタンプ」の作成・販売
- 地域をより良くしようとする意欲の醸成、郷土に対する愛着や誇りの高まり、グローバル教育の推進、グローバル人材の育成へ

<p>・おもてなしの力の向上</p>	<p>○研修等によるおもてなし力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人おもてなし研修（2回）（飲食店、旅館業等延べ151人参加） ・インバウンド対応接遇研修（各市町観光部署・観光協会・観光案内所等職員等延べ301人参加） ・サミットに関わった多くの事業者による貴重な経験（ジュニア・サミットや首脳会議等の受入れ、各国要人等の受入れ、食事・食べ物の安全な提供等） <p>→国際観光地としてのレベルアップへ</p>
<p>・ダイバーシティの視点による地域の深化</p>	<p>○障がい者の活躍</p> <p><配偶者プログラムでの参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お菓子の提供（はあぶ工房 together によるシフォンケーキ、維雅幸育会ふっくりあもオンマールによる伊賀の飛猿サブレの提供） ・障がい者等とのパラスポーツ体験（約50名） <p><贈呈品></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総理夫人から首脳等配偶者への贈呈品ラッピング（ペタンコバックミニ（三重の手づくりブランド「M. I. E」（ミー）） <p><ジュニア・サミットでの参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内分散型体験・交流行事でのおもてなし 太鼓演奏 特別支援学校玉城わかば学園 31名 ・参加者用名札（伊賀組紐）の作成 特別支援学校（2校）19名 ・マイ箸袋（さをり織り）の作成 特別支援学校（2校）25名 <p>○在日外国人の活躍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際理解・国際交流プログラムでの講師派遣（17回） <p>○外国人向けの情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民会議HPの多言語化 ・県HP（多文化共生課）でのサミット情報の発信 <p>→障がいの有無、国籍等にとらわれず、共生できる社会へ</p> <p>○訪日外国人等への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料公衆無線LANの整備状況（平成27年度）1,287か所 ・消費税免税店開設準備状況（平成27年度）16か所 ・施設内外国語表記等改善状況（平成27年度）39か所 <p>→訪日外国人旅行者の誘致へ</p>

・県民力で「安全・安心」
に取り組んだ経験 等

○官民協働による安全・安心の取組

- ・官民で協力してテロ等を未然に防止するため取り組んだ「テロ対策パートナーシップ」(41 機関が参加)
- ・テロ対策パートナーシップ交通対策推進ワーキンググループと連携して取り組んだ交通総量抑制対策
開催期間中、高速道路等で著しい渋滞発生はなく、円滑な交通流を確保。
→今後の安全・安心なまちづくりへ

○社会資本整備の取組

- ・サミット関係会場周辺等の道路・河川・港湾等の整備
- ・携帯電話通話不可区域の解消 (伊勢道路)

○防災・危機対策委員会の取組

- ・開催期間中、救急案件 8 件、首脳クラスの救急搬送なし。傷病者の症状はいずれも中等症又は軽傷。
- ・DONET を活用した津波予測・伝達システムを整備、5 月 19 日、運用開始。5 月 24 日から 27 日までは、専門家待機の下、システムを運用。
- ・観光事業者において、自然災害対策として津波避難マップ等を整備し、4 月 12 日、DONET を活用したシステムの動作試験と、これに連動した避難訓練を 3 市町で実施。
→地震・津波対策の一層の充実、
今回の経験を次の M I C E 開催へ

○保健・医療対策委員会の取組

- ・開催期間中、食中毒・感染症の発生なし。毒物劇物取扱施設・水道施設の異常なし。
- ・救急患者数 63 名 (延べ 75 件)、首脳クラスの患者なし。
→今回の経験を次の M I C E 開催へ